

公開シンポジウム

若者の生活保障のために 何が必要か —ナショナルミニマムと ローカルオプティマムの観点から—

申込不要
入場無料

- **日時**：2016年10月15日（土）
13:30～17:30
- **場所**：日本学術会議 講堂
- **プログラム**



- **趣旨説明**: 本田由紀 (東京大学教育学研究科教授)

第Ⅰ部 現場からの報告



- 「生活困窮状態にある若者支援の現場から—社会政策に求めるもの—」: 藤田孝典 (NPO法人ほっとプラス代表理事、聖学院大学人間福祉学部客員准教授)
- 「10代～30代の女性たちの困難—シングルマザーを中心に—」: 赤石千衣子 (しんぐるまざーず・ふぉーらむ理事長)

第Ⅱ部 研究からの報告

- 「誰がどのようなリスクを抱えているか—家族背景／ジェンダー／地域—」: 乾彰夫 (首都大学東京名誉教授)
- 「若年生活困窮者に対する伴走型就労・社会参加支援—持続的な総合的コーディネート型支援と地域づくり—」: 稲月正 (北九州市立大学基盤教育センター教授)

第Ⅲ部 総合討論 (司会) 本田由紀

(コメンテーター) 堀 有喜衣 (労働政策研究・研修機構 主任研究員)

※主催: 日本学術会議社会学委員会社会変動と若者問題分科会
共催: 同 社会福祉学分科会・ジェンダー研究分科会